

阿山第2運動公園グラウンド人工芝化整備について

令和8年5月

伊賀市

目 次

I. 要旨	1
II. 人工芝グラウンドの主な効果及び整備優先理由	1・2・3
III. 施設整備の基本方針	3・4
IV. スポーツ施設の現状と人工芝グラウンド整備の必要性	
1. 市内のスポーツ施設（サッカー競技可能施設）の現状	4
2. 人工芝グラウンド整備の必要性	4
V. 人工芝グラウンド施設整備概要	
1. 整備予定地	5
2. 施設の機能	5
3. 基本仕様	5
VI. 整備事業費	
1. 概算額	6
2. 整備事業費を含めた20年間の総コスト概算	6
VII. 整備スケジュール	7
VIII. 人工芝グラウンド配置イメージ図	7
【参考資料】	
伊賀市人工芝グラウンド整備候補地選定比較評価基準	8
伊賀市人工芝グラウンド整備候補地選定比較表	9

I. 要旨

本市は令和3年時点で34施設あったスポーツ施設を、同年策定の「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」に基づき見直しを進め、前期5年間で7施設を廃止し、現在までの維持管理経費等の年間削減効果額は、1,800万円程度となり、現在27施設を管理運営しています。前期期間は、突発的修繕等により当初計画の整備が遅延しましたが、プール大規模改修、体育館等のLED化を実施しました。

中間見直し後の5年間では遅延した当初計画全ての実施が難しいことから、再編・整備を着実に進めるため、整備内容を精査した上で、計画の重点目標として「天候に左右されず通年利用が可能な屋外環境の改善（グラウンド人工芝化）」と「猛暑に対応した屋内環境の改善（空調設備設置）」を掲げます。

その中でもグラウンド人工芝化は、平成26年2月に伊賀市議会より請願が提出されており、また、これまで長年にわたりスポーツ協会等から人工芝グラウンドの整備についての要望が寄せられている。これらを重く受け止め、多様化するスポーツニーズに対応するため、天候に左右されず年間を通じた安定した利用環境を確保できるとともに、施設稼働率の向上、安全性の向上、さらにはスポーツ大会・合宿誘致による交流人口拡大・地域経済の活性化が期待されることから、優先して整備を推進する必要があります。

II. 人工芝グラウンドの主な効果及び整備優先理由

▶多目的利用による市民利活用拡大

人工芝グラウンドはサッカー、グラウンド・ゴルフ、地域イベント、学校の部活動等で利用でき、市民利用の幅を広げることができます。

▶スポーツ実施率及び平均稼働率の向上

天候に左右されず年間を通じて安定した高品質ピッチを提供することで、伊賀市スポーツ推進計画の総合目標である「スポーツ実施率の向上」や、成果目標である「スポーツ施設の平均稼働率の向上」が期待できます。

▶緊急性・安全性

現行のグラウンド状態が著しく劣化しており、安全面及び維持管理面で早急な整備が不可欠です。放置すれば事故や利用停止による利用機会の損失が拡大するため、優先度が高いと考えられます。また、適切な整備により幼少期から高齢者までの身体負担の軽減にもつながります。さらに、照明を設置することにより暑さ対策としても快適な運動環境を提供できるだけでなく、熱中症対策の観点から昼間の利用を夜間にシフトさせることも可能となり安全性の向上につながります。

▶維持管理コスト

人工芝化により天然芝に比べ、年間の維持管理負担（頻繁な補修・散水・刈り込み等）を軽減できます。

（年間維持管理コスト・・・天然芝：350万円・人工芝：50万円～100万円）

▶大会・合宿誘致

交通アクセスや宿泊・受入環境を活かしたスポーツ大会や合宿の誘致が可能となり、地域内消費の増加や地域経済の活性化につながります。

➤利用・需要

市内の競技種目別多目的施設利用状況は、サッカー競技の利用者が 37,912 人と全体の約 4 割を占めており、グラウンド・ゴルフの利用者も 8,500 人となっています。

スポーツ少年団では、サッカースポーツ少年団が 9 団・248 名と全体の約 4 割を占めており、さらには、市内のサッカーチーム数は県内で四日市市、鈴鹿市に次いで多く、小学生からシニア、女子まで幅広い年代がプレーしており、これらの利用状況や競技人口から、整備後の市民需要は非常に高いといえます。

また、近隣市の人工芝グラウンド利用状況は、名張市 49,462 人 (R7)、甲賀市 95,247 人 (R7) と非常に多く、この状況からもグラウンドの人工芝化により、利用者の増加が期待できます。

※競技種目別多目的施設利用者数 (R7)

	サッカー	野球	ソフトボール	グラウンド・ ゴルフ	その他 (陸上など)
阿山第 1・第 2 運動公園	5,078	5,561	840	166	60
いがまち スポーツセンター	2,964	1,954	748	63	0
ゆめが丘多目的広場	13,246	0	0	0	0
上野運動公園 多目的グラウンド	425	722	0	0	38
青山グラウンド	3,698	3,294	1,196	12	86
上野運動公園野球場	349	7,663	145	515	120
上野運動公園競技場	11,339	0	0	2,642	2,245
しらすぎ運動公園 多目的グラウンド	813	3,486	473	3,562	7,201
島ヶ原運動広場	0	3,190	0	1,540	24
合 計	37,912	25,870	3,402	8,500	9,774

※市内スポーツ少年団の状況 (R7)

	サッカー	野球	バレー ボール	空手 少林寺	テニス	陸上	ダンス	複合	合計
団数	9	7	8	2	1	1	1	2	31
団員数	248	123	106	26	20	41	37	14	615

※県内サッカーチーム数の状況（各カテゴリー別） R8.3.31 現在

	小学生	中学生	高校生	社会人	シニア	女子	総数	人工芝G
伊賀市	13	2	2	7	4	3	31	
津市	17	2	5	2	2	1	29	○(予定)
四日市市	23	3	5	3	7	1	42	○
伊勢市	9	3	2	1	3	0	18	○
松阪市	7	3	3	2	0	1	16	○
桑名市	9	2	4	0	3	3	21	○
鈴鹿市	17	3	2	4	6	0	32	○
尾鷲市	1	0	0	0	0	0	1	
亀山市	1	0	0	0	1	0	2	
鳥羽市	1	0	0	0	0	0	1	
熊野市	1	1	0	0	0	0	2	○
志摩市	3	0	1	0	1	0	5	
いなべ市	2	1	1	0	0	0	4	
名張市	7	2	3	1	1	0	14	○
※三重県サッカー協会登録チーム数								

※他市の人工芝グラウンド利用状況

	名称	利用実績（R7）	稼働率	施設規模
名張市	メイハンフィールド	49,462人 ※陸上使用者を含む	—	サッカーコート1面 少年用2面
甲賀市	水口スポーツの森 輝きの杜 SANTO FIELD	95,247人	87%	サッカーコート2面 少年用4面
桑名市	桑名市総合運動公園 フットボール場	53,769人 ※市内53,173人 ※市外596人	43%	サッカーコート1面 少年用3面
松阪市	松阪市総合運動公園 多目的グラウンド	76,924人	67.3%	サッカーコート1面 少年用2面

四日市市・伊勢市は調査中

Ⅲ. 施設整備の基本方針

充実したスポーツ施設を活用し、サッカー競技を中心とした大会開催の利用や子どもから高齢者までが人工芝グラウンドを多目的に利用できる環境づくりに取り組むことを目的とします。

(1) 市民ニーズに沿った施設の整備充実

- ・サッカー競技に限らず、市民の多様な活動ができる施設
- ・市民の健康増進につながる生涯スポーツができる施設

(2) 施設の機能充実

- ・サッカー競技利用での充実した機能
- ・夜間利用できる設備の整備
- ・多目的利用が可能となる機能

(3) バリアフリー施設の整備充実

- ・多様な人が使用しやすいトイレや休憩スペースの整備

IV. スポーツ施設の現状と人工芝グラウンド整備の必要性

1. 市内のスポーツ施設（サッカー競技可能施設）の現状

名 称	グラウンド面	備 考
上野運動公園競技場	天然芝	サッカー1面
阿山第2運動公園グラウンド	天然芝	サッカー1面
ゆめが丘多目的広場	天然芝	サッカー1面
上野運動公園多目的グラウンド	クレー	サッカー少年用1面
青山グラウンド	クレー	サッカー1面
いがまちスポーツセンターグラウンド	クレー	サッカー1面
阿山第1運動公園グラウンド	クレー	サッカー1面
<p>・本市には、サッカー競技が可能なグラウンド（学校施設を除く）として、上記表のとおり天然芝グラウンド（3面）とクレーグラウンド（4面）を整備しています。</p> <p>・天然芝グラウンドのうち上野運動公園競技場は、なでしこリーグ等の上位大会の開催時に使用し、日常の練習等を踏まえた一般的な使用は、他の施設（2面）で運用していますが、雨天時や芝の養生期間など使用に制限があります。</p> <p>・クレーグラウンドは、4面（うち1面少年用のみ）あり通年利用が可能ですが、雨天時のコンディションはかなり悪くなります。状況によっては雨天時に使用を制限する場合があります。</p>		

2. 人工芝グラウンド整備の必要性

- 人工芝グラウンドは、年間の維持管理費が天然芝よりも安価となり養生期間が不要で、天候を気にせず通年利用が可能となりますので利用者の利便性が向上します。
- また、グラウンド面の凹凸がほぼ無く、近年の高品質化により衝撃吸収性が向上したことから、プレーヤーの怪我予防等の安全性にも寄与します。
- さらには、サッカー競技だけでなくレクリエーションやグラウンド・ゴルフ、ホッケー、地域イベントなど多目的な利用が可能となります。

V. 人工芝グラウンド施設整備概要

1. 整備予定地

伊賀市川合地内（阿山第2運動公園グラウンド） 整備予定面積 8,000 m²

【選定理由】

- ・上記の整備予定地を選定するあたり、市内の6施設の比較検討を行いました。
- ・比較内容は別紙のとおりとなります。（整備候補地選定比較表・比較評価基準）

2. 施設の機能

- ・サッカー競技の利用が拡大する機能（雨天時でも利用可能）
- ・夜間使用可能な人工芝グラウンド
- ・市民の健康づくりに活用できる機能
- ・サッカー競技以外の市民のレクリエーションなどにも活用できる機能
- ・多様な人が利用できる機能（トイレ、休憩スペースなど）

3. 基本仕様

（1）人工芝グラウンド

- ・規格：日本サッカー協会が定めるコートサイズを確保
環境に配慮したマイクロプラスチックなど材料の選定
- ・照明：夜間利用が可能な照明を設置
（一般競技大会の開催に対応可能な300ルクス以上）
- ・周囲：バリアフリーに対応した通行可能な通路（ウレタン素材等）の設置
高さ8～10m程度の防球ネットの設置

（2）多目的広場・休憩スペース

- ・ウォーミングアップ可能エリアの設置
- ・日陰となる屋根付き休憩スペースの設置

（3）トイレ・手洗い場

- ・バリアフリートイレの設置
- ・手洗い場の設置

VI. 整備事業費

1. 概算額

【千円】

区 分		人工芝化	付帯施設	備 考
事 業 費		530,000	100,000	(合計 630,000 千円)
財 源 内 訳	国庫支出金	265,000	50,000	地域未来交付金 (補助率 1/2)
	地方債	238,500	45,000	一般補助施設整備等事業債 (充当率 90%、交付税措置率 30%)
	一般財源	26,500	5,000	
市実質的負担額		193,450	36,500	(合計 229,950 千円)
<p>・ 地方債及び一般財源を合わせた市負担額は、3億 1,500 万円ですが、交付税措置のある地方債であるため交付税として 8,505 万円交付されることから、市の実質負担額は 2億 2,995 万円となります。</p>				

2. 整備後 20 年間のコスト概算 (ランニングコスト)

【千円】

項 目	金 額
A 20 年間ランニングコスト (500 千円×20 年)	10,000
【財源内訳】	
一般財源	10,000
B 人工芝張替更新コスト (整備後 10~13 年)	200,000
【財源内訳】	
スポーツ振興くじ助成 (TOTO 助成)	30,000
一般財源	170,000
C 利用料収入 (5,400 千円×20 年)	108,000
D 整備後 20 年間のコスト (A+B-C)	102,000
<p>・ 20 年間のコストは、2億 1,000 万円となりますが、補助金 3,000 万円 (見込) と利用収入が 1億 800 万円見込めることから、実質的な負担額は 20 年間で 1億 200 万円となります。(1 年あたり 510 万円)</p> <p>・ さらに、ネーミングライツ収入などの収入増加にも努めてまいります。</p>	

VII. 整備スケジュール

人工芝グラウンドは、令和10年度の供用開始を目指し、付帯施設を含めた全体の供用開始は令和11年度を目指します。

区分	R 8	R 9	R10
人工芝グラウンド整備	実施設計	施設整備工事	
多目的広場・休憩スペース トイレ等整備			施設整備工事

VIII. 人工芝グラウンド配置イメージ図



伊賀市人工芝グラウンド整備候補地選定比較評価基準

整備候補地選定の比較評価は、以下の表に基づき行うものとする。

項 目			◎ (3点)	○ (2点)	△ (1点)	× (0点)
施設規模・規格面	対応競技規格	JFA推奨サッカーコート1面+安全帯5mの確保	確保できる	—	—	確保できない
	ウォーミングアップエリアなど	ウォーミングアップエリアなど	コート以外にスペースが十分ある	コート以外にスペースがある	コート以外にスペースがほぼない	コート以外にスペースがない
利用状況	利用状況	稼働実績利用者数	稼働率50%以上 利用者数10,000人以上	稼働率30%以上 利用者数5,000人以上	稼働率10%以上 利用者数1,000人以上	稼働率10%未満 利用者数1,000人未満
立地上りリスク	法面・擁壁	崩壊等の恐れがあるか	法面が無く崩壊等の恐れはない	法面はあるが崩壊等の恐れはない	法面があり一部崩壊している	法面があり大規模崩壊している
	浸水	浸水する恐れがあるか	浸水の恐れはない	浸水する恐れがある	浸水したことがある	毎回浸水する
アクセス・交通	主要道路からのアクセス	新名神・名阪国道からの距離	名阪国道・新名神から10km未満	名阪国道・新名神のいずれかが10km未満	名阪国道・新名神から10km以上	名阪国道・新名神から20km以上
	駐車場 駐輪場	台数	駐車場200台以上	駐車場100台以上200台未満	駐車場50台以上100台未満	駐車場50台未満
	公共交通	最寄り駅・バス停からの距離	最寄り駅・バス停から1km未満	最寄り駅・バス停のいずれかが1km未満	最寄り駅・バス停から1km以上	最寄り駅・バス停から2km以上
周辺環境	騒音	周辺への影響	周辺に住宅がない	周辺に住宅が多少ある	周辺に住宅がある	周辺に住宅が密集している
	照明光漏れ	周辺への影響	周辺に住宅がない	周辺に住宅が多少ある	周辺に住宅がある	周辺に住宅が密集している

